

【平成30年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証(案)
01	<p>7 専門性を発揮したチーム医療の推進 医師・看護師・薬剤師他コメディカル等の専門的知識を有した医療従事者が、1人の患者に対してより質の高い医療を提供するために協働及び連携し、情報の共有化を行う。 また、チーム医療を進める上で、医療従事者は専門性の高い知識や技術を習得し、ガイドラインやプロトコル等を活用した治療の標準化の浸透を図る。</p> <p>8 メディカカードの導入等のITの活用 メディカカードの発行など救急医療現場で迅速かつ質の高い診療が提供できるようITを有効活用し、患者情報の共有等を図る。</p>	<p>7 専門性を発揮したチーム医療の推進 ・異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することにより、治療やケアに当たることができた。 ・平成30年度、新たにAST(抗菌薬適正使用支援チーム)、早期離床リハビリテーションチームを設置した。 ＜主な医療チーム＞ ICT、緩和ケアチーム、呼吸器ケアチーム、褥瘡ケアチーム、口腔ケアチーム、NST チーム、摂食嚥下チーム、認知症ケアチーム、AST、早期離床リハビリテーションチーム</p> <p>8 メディカカードの導入等のITの活用 ・救急医療現場での活用を図るため、心臓疾患の患者にメディカカードの作成を勧めるよう努めた。(平成30年度末現在の発行枚数は12枚) ・平成29年度にシステム環境を整備した、深夜帯の救急外来における外部(海外)放射線専門医による画像コンサルテーションに加え、準夜帯にも外部(NPO法人岐阜画像診断ネットワークセンター)の放射線専門医による画像コンサルテーションが受けられるよう、システム環境の構築を行った。平成30年度は1,718件のCT・MRI検査画像のコンサルテーション依頼を行った。</p>	IV		専門性の高いチーム医療の充実及び夜間など救急に対応できる画像コンサルテーションシステムの環境整備は評価できる。
02	<p>1 待ち時間及び検査・手術待ちの改善等 待ち時間の実態調査(患者満足度調査「年1回」)</p>	<p>1 待ち時間及び検査・手術待ちの改善等 ＜外来部門＞</p>	IV		待ち時間の短縮、手術室の稼働率や手術件数の増加、検査件数の増加は評価できる。

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																								
	<p>及びシステムによる調査「年4回」)を実施し、患者からの意見・要望に対して、各部署において改善計画を立案し、積極的に取り組むことで平均待ち時間の短縮を図る。</p> <p>また、診察の待ち時間の短縮を図るため、各診療科の診察枠の見直しや診療単価等の分析による患者構成を把握することで病状等に即した医療機能の分化を推進する。</p> <p>さらに、他科の診療情報の共有、他医療機関との連携など医療体制を充実し、業務の効率化とスピード化を図る。</p> <p>中央採血室における採血待ちや心電図、超音波の待ち時間短縮に努める。</p> <p>また、臨床検査科での各種検査の精度管理を推し進め、業務の見直しや新規導入機器を活用し、結果報告までの時間短縮を図る。</p> <p>継続して地域医療機関との外来予約受付体制の改善を行い、外来予約システムの構築を検討する。</p> <p>また、継続して手術枠の効率的な運用を検討し実施することで、手術件数を増大させ手術待ち時間の改善につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検査・診察・治療を患者に合わせたきめ細かい対応を行うことにより、院内滞在時間の縮減を図る取組を継続した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・検査が必要な患者に対しては検査を先に実施 ・看護師による指導を必要とする患者に対しての指導・説明を待ち時間に実施 ・入院患者に対する説明の一元化 ・病診連携による紹介患者については、診察予約時間30分以内の診察を徹底 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間の有効活用に向けた取組を継続した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間に待合場所を離れる患者に対して、希望により携帯電話による呼び出しを実施 ・診療科に即したパンフレットや図書を配置 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関からの外来予約について、インターネットを活用した受付を小児科において継続実施した。 ・患者満足度調査にあわせて、待ち時間調査を実施するとともに、システムによる待ち時間の把握を年4回実施し、状況の把握に努めた。調査の結果、外来患者数増加の影響で患者満足度調査では平均待ち時間が増加したが、システムによる調査では30分以上の待ち時間患者の割合はやや減少した。 <p>○患者満足度調査による平均待ち時間 単位：分</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>27</td> <td>24</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予約時刻と実際の診療開始時刻までの時間</p> <p>○システムによる待ち時間別患者構成率 単位：%</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年月/待ち時間</th> <th>～30分</th> <th>30～2時間</th> <th>2時間～</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28.1</td> <td>41.2</td> <td>49.2</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>H29.1</td> <td>51.1</td> <td>43.0</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td>H30.1</td> <td>47.4</td> <td>45.8</td> <td>6.8</td> </tr> </tbody> </table>	H27	H28	H29	H30	28	27	24	35	年月/待ち時間	～30分	30～2時間	2時間～	H28.1	41.2	49.2	9.6	H29.1	51.1	43.0	5.9	H30.1	47.4	45.8	6.8			また、医療通訳の配置も評価できる。
H27	H28	H29	H30																										
28	27	24	35																										
年月/待ち時間	～30分	30～2時間	2時間～																										
H28.1	41.2	49.2	9.6																										
H29.1	51.1	43.0	5.9																										
H30.1	47.4	45.8	6.8																										

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				自己 評価	論 点	検 証 (案)																																		
		H31.1	47.9	45.5	6.6																																					
		<p>・待ち時間短縮取り組みの一環として富士通が提供するフィールド・イノベーション・サービスを活用し、患者数が多い診療科についてデータ分析と現場観察を行い、待ち時間が長くなる要因を探った。</p> <p><臨床検査部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査（生理検査部門）技師の増員を維持することで、待ち時間の短縮を図った。 H28：9.5人 → H29：12人 → H30：12人 ・待ち時間の短縮を図るため、採血開始時間を8時とする取組を継続するとともに、混雑時職員7人、6ブース（臨時）で行った。また、従来簡易台だった6ブース目の採血台をスペースを確保した上で、通常の台に変更した。 H28：5ブース → H29：6ブース → H30：6ブース <p>○超音波検査件数（外来分） H28：19,684件 → H29：20,542件（4.4%増） → H30：22,007件（7.1%増）</p> <p>○超音波検査待ち時間の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月/項目</th> <th>総数</th> <th>60分未満</th> <th>～90分</th> <th>90分超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27.4</td> <td>2,078件</td> <td>72.6%</td> <td>22.2%</td> <td>5.2%</td> </tr> <tr> <td>H28.4</td> <td>2,066件</td> <td>73.9%</td> <td>22.8%</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>H29.4</td> <td>2,110件</td> <td>71.7%</td> <td>24.9%</td> <td>3.4%</td> </tr> <tr> <td>H30.4</td> <td>2,215件</td> <td>84.7%</td> <td>13.1%</td> <td>2.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p><中央放射線部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・CT検査での予約枠を検査内容で装置ごとに振り分ける取組や、MRI検査での時間外検査枠を設ける取組を継続した。 <p>○検査件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度/項目</th> <th>CT 外来</th> <th>CT 入院</th> <th>MRI 外来</th> <th>MRI 入院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				年月/項目	総数	60分未満	～90分	90分超	H27.4	2,078件	72.6%	22.2%	5.2%	H28.4	2,066件	73.9%	22.8%	3.2%	H29.4	2,110件	71.7%	24.9%	3.4%	H30.4	2,215件	84.7%	13.1%	2.2%	年度/項目	CT 外来	CT 入院	MRI 外来	MRI 入院							
年月/項目	総数	60分未満	～90分	90分超																																						
H27.4	2,078件	72.6%	22.2%	5.2%																																						
H28.4	2,066件	73.9%	22.8%	3.2%																																						
H29.4	2,110件	71.7%	24.9%	3.4%																																						
H30.4	2,215件	84.7%	13.1%	2.2%																																						
年度/項目	CT 外来	CT 入院	MRI 外来	MRI 入院																																						

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																						
		H27	30,425	7,074	12,334	2,664																																																								
		H28	31,185	6,878	10,636	2,067																																																								
		H29	32,696	7,436	10,835	2,068																																																								
		H30	34,946	7,938	11,517	1,943																																																								
		<p><手術部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術の内容に応じた手術枠の弾力的運用や手術機材のキット化により手術待ち時間や手術準備時間の短縮を図る取組を継続した。 <p>○時間内手術室稼働率・総手術件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率 (単位: %)</td> <td>68.7</td> <td>66.8</td> <td>69.6</td> <td>74.1</td> </tr> <tr> <td>件 数 (単位: 件)</td> <td>7,325</td> <td>7,264</td> <td>7,342</td> <td>7,534</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <p>総合相談センターに相談担当者が常駐する相談窓口を設置し、関係部署との連携を図り、診療内容、在宅支援、苦情、就労支援をはじめあらゆる相談に迅速に対応可能なシステムを整える。</p> <p>また、毎週、カンファレンスを開催し、問題事項についてスタッフ間で協議する。</p> <p>提案箱も含め、意見、苦情に対して積極的に対応し、内容を公表していく。</p> <p>院内の外国語表示を増やすとともに、外国語に対応できる通訳体制を充実させる。</p> <p>特に、がん診療連携拠点病院としてのがん相談支援センター機能を充実させ、がん相談件数の増加を図る。</p> <p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日にカンファレンスを開催し、医療相談に係る問題事項についての協議を行った。 <p>○医療相談件数 単位: 件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,687</td> <td>4,914</td> <td>4,794</td> <td>4,870</td> </tr> </tbody> </table> <p>○カンファレンスで協議した事項及び件数 単位: 件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院の環境</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>患者等からの相談</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>18</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>患者相談対応力向上のための事例検討</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>患者等からの苦情</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>52</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>22</td> <td>12</td> <td>24</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>						項目/年度	H27	H28	H29	H30	稼働率 (単位: %)	68.7	66.8	69.6	74.1	件 数 (単位: 件)	7,325	7,264	7,342	7,534	H27	H28	H29	H30	4,687	4,914	4,794	4,870	項目/年度	H27	H28	H29	H30	病院の環境	5	3	3	6	患者等からの相談	32	28	18	14	患者相談対応力向上のための事例検討	7	17	8	22	患者等からの苦情	40	39	52	83	その他	22	12	24	10		
項目/年度	H27	H28	H29	H30																																																										
稼働率 (単位: %)	68.7	66.8	69.6	74.1																																																										
件 数 (単位: 件)	7,325	7,264	7,342	7,534																																																										
H27	H28	H29	H30																																																											
4,687	4,914	4,794	4,870																																																											
項目/年度	H27	H28	H29	H30																																																										
病院の環境	5	3	3	6																																																										
患者等からの相談	32	28	18	14																																																										
患者相談対応力向上のための事例検討	7	17	8	22																																																										
患者等からの苦情	40	39	52	83																																																										
その他	22	12	24	10																																																										

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の受診を支援するため、県国際交流センターに医療通訳ボランティアの派遣を引き続き依頼するとともに、職員による対応を行った。特に職員による対応件数が増加した。 ・総合案内、初診受付、救外受付に新たに翻訳アプリ搭載のタブレットを計4台配備した。 ・電話による通訳サービスを導入し、通訳担当職員不在時（夜間休日）などにも対応できるよう努めた。 <p>○医療通訳病院職員対応件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中国語</td> <td>145</td> <td>205</td> <td>227</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>255</td> <td>200</td> <td>342</td> </tr> <tr> <td>スペイン語、他</td> <td>227</td> <td>383</td> <td>338</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>627</td> <td>788</td> <td>907</td> </tr> </tbody> </table> <p>※雇用 H28. 4:1人（非常勤事務職） → H29. 10:1人（医療通訳業務専門職）</p> <p>○医療通訳ボランティア派遣依頼件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポルトガル語</td> <td>258</td> <td>184</td> <td>205</td> <td>228</td> </tr> <tr> <td>中国語</td> <td>23</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>タガログ語</td> <td>50</td> <td>28</td> <td>48</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>331</td> <td>212</td> <td>253</td> <td>232</td> </tr> </tbody> </table> <p>○電話通訳サービス利用件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポルトガル語</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>タガログ語</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>ベトナム語</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>スペイン語</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	H28	H29	H30	中国語	145	205	227	英語	255	200	342	スペイン語、他	227	383	338	合計	627	788	907	項目／年度	H27	H28	H29	H30	ポルトガル語	258	184	205	228	中国語	23	0	0	0	タガログ語	50	28	48	4	合計	331	212	253	232	項目／年度	H30	ポルトガル語	25	タガログ語	13	ベトナム語	27	英語	9	スペイン語	3			
項目／年度	H28	H29	H30																																																											
中国語	145	205	227																																																											
英語	255	200	342																																																											
スペイン語、他	227	383	338																																																											
合計	627	788	907																																																											
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																																										
ポルトガル語	258	184	205	228																																																										
中国語	23	0	0	0																																																										
タガログ語	50	28	48	4																																																										
合計	331	212	253	232																																																										
項目／年度	H30																																																													
ポルトガル語	25																																																													
タガログ語	13																																																													
ベトナム語	27																																																													
英語	9																																																													
スペイン語	3																																																													

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)		
		<table border="1"> <tr> <td>合計</td> <td>77</td> </tr> </table> ※H30. 7. 1 サービス開始	合計	77			
合計	77						
03	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 地域の医療機関、福祉施設をつなぐ架け橋として、患者やその家族が安心して医療が受けられる地域に開かれた「地域医療支援病院」としての機能を果たす。そのため、「地域医療連携センター部」（「病診連携部」、「退院サポート部」、「連携パス部」）、「総合相談センター」（「なんでも相談室」）の機能をさらに充実させ、患者動向や医療需要も把握し、診療体制の整備・充実に図る。 また、時間外にも病診連携部を通じた診療予約を継続し、患者や地域医療機関の利便性を高める。	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・患者動向や医療需要の変化に対応した組織改編等に積極的に取り組んだことにより、患者に対してよりきめ細やかなサービスを提供することができた。 ・がんゲノム医療に対応した遺伝子治療部及び長良医療センターとの連携による胎児診療科を新たに設置した。 ○組織・診療科等の新設等 【事務局】 <ul style="list-style-type: none"> ・経営企画課の再編（「物品調達担当」と「物品管理担当」とを統合し「物品担当」へ） ・医事課の再編（「診療情報担当」を「医事担当」へ統合） 【診療部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・「入退院管理室」の「病診連携部」への統合 ・「遺伝子治療部」の新設、「遺伝子診断治療外来」の廃止 ・「泌尿器内視鏡科」の新設 ・総合相談センターの再編（「なんでも相談室」の廃止、「就労支援センター」の新設） ・胎児診療科の新設、母胎科の廃止 【医療支援部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査科の担当名称の変更 ・臨床工学部内の改編（「救急・病棟担当」、「手術担当」、「不整脈・内視鏡担当」及び「人工透析担当」の新設） ・中央放射線部内の改編（「MR・CT担当」を「MR担当」と「CT担当」に分離） 	IV		がんゲノム医療に対応した遺伝子治療部の新設は評価できる。 また、胎児診療科がスムーズに運営できるよう努力されたい。		
04	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上 当センターと地域医療機関がそれぞれの特性を生かしながら機能分担し、患者が病状に即した医療を受診できるよう地域全体で協力し、ケアしていくため、「地域医療支援病院」として、さらなる紹介率の向上（80%以上）、及び逆紹介率の向上（100%以上）を目指すことで、地域の医療機関との連携及び協働体制の更なる充実を図る。 また、地域の各医療機関を定期的に訪問すること	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率・逆紹介率について、年度計画（紹介率70%以上、逆紹介率90%以上）の目標を達成し、地域医療支援病院として、地域医療の中核的な機能を果たした。 ・開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大を目指し、新規に開設した医療機関に対する働きかけを行った。 ○紹介率・逆紹介率 単位：％	IV		紹介率、逆紹介率の高さは評価できる。 また、退院前合同カンファレンスの実施件数の増加は評価できる。		


項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																						
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				自己 評価	論 点	検 証 (案)																																				
	<p>により、開放型病床登録医療機関及び登録医師数のさらなる拡大や紹介患者数の増加を目指し、「病病連携」や「病診連携」を強力に推進する。</p> <p>4 在宅医療・療養へ移行するための地域の介護・福祉機関との連携強化 地域の医療機関や介護・福祉機関と連携及び協力し、安心して在宅療養ができるように退院サポート部（看護師等）が積極的に関わるとともに、転院等の患者に対しても、退院サポート部（MSW等）が患者の症状や家族の状況等を把握し、患者にとってより適切な医療機関への転院等を進める。 また、各病棟に退院支援に従事する専任の退院支援職員（MSW等）を配置し、自宅退院や転院を効果的にを行い、「退院支援加算1」を維持する。 より適切な退院、転院を進めるために、医療機関や介護・福祉機関を定期的に訪問し、各医療機関等の機能や稼働状況等を把握するとともに「顔の見える連携」を目指し、在宅復帰率（80%以上）の安定的な維持を図る。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>64.1</td> <td>72.3</td> <td>75.3</td> <td>77.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>84.2</td> <td>94.1</td> <td>99.2</td> <td>98.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 在宅医療・療養へ移行するための地域の介護・福祉機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープン病床クリニカルミーティングを1回開催し、65人の参加を得た。 ・在宅医療・療養への移行に当たっては、退院後の在宅医療を担う医療機関の医師、看護師、訪問看護ステーションの看護師等と退院前合同カンファレンスを実施した。また、退院後に介護サービスの利用が見込まれる患者に対しては、ケアマネージャーと連携した退院指導を実施した。 ・転院先の医療機関を訪問し、「顔の見える連携」を図るとともに、医療機関の情報収集を行った結果、在宅復帰率80%の目標を十分に達成することができた。 H28:94.1% → H29:94.5% → H30:95.0% ・開放型病床については、適正に運用することができた。 <p>○開放型病床利用率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>103.8</td> <td>102.0</td> <td>73.0</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開放型病床 H26:100床 → H27:20床</p> <p>○退院調整件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,684</td> <td>1,747</td> <td>1,758</td> <td>2,008</td> </tr> </tbody> </table> <p>○介護施設・ケアマネージャーからの情報提供件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>330</td> <td>478</td> <td>547</td> <td>810</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	H27	H28	H29	H30	紹介率	64.1	72.3	75.3	77.0	逆紹介率	84.2	94.1	99.2	98.1	H27	H28	H29	H30	103.8	102.0	73.0	64.0	H27	H28	H29	H30	1,684	1,747	1,758	2,008	H27	H28	H29	H30	330	478	547	810			
項目/年度	H27	H28	H29	H30																																								
紹介率	64.1	72.3	75.3	77.0																																								
逆紹介率	84.2	94.1	99.2	98.1																																								
H27	H28	H29	H30																																									
103.8	102.0	73.0	64.0																																									
H27	H28	H29	H30																																									
1,684	1,747	1,758	2,008																																									
H27	H28	H29	H30																																									
330	478	547	810																																									

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																														
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																													
		○退院前合同カンファレンスの実施件数 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>136</td> <td>131</td> <td>176</td> <td>196</td> </tr> </tbody> </table> ○転院先医療機関への訪問件数 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12</td> <td>56</td> <td>31</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>	H27	H28	H29	H30	136	131	176	196	H27	H28	H29	H30	12	56	31	36																																
H27	H28	H29	H30																																															
136	131	176	196																																															
H27	H28	H29	H30																																															
12	56	31	36																																															
05	3 母とこども医療センター (周産期医療) 産婦人科系関係各診療科・総合周産期部と新生児医療センター (新生児内科) を基幹として、各科の枠を超えた母とこどもの総合的な高度医療を提供する。 新生児医療センターでは、超早産児をはじめとして他施設では対応困難な症例の受入と専用のドクターカー (すこやか号) により新生児搬送を行い、後遺症なき発育を目指す。 また、各センター等の充実を図ることで、より高度なチーム医療を目指す。 県下全域に影響が危惧される事案が発生した場合には、県及び岐阜県周産期医療協議会等へ報告するとともに連携し協力体制を整える。	3 母とこども医療センター (周産期医療) <ul style="list-style-type: none"> ・新生児センター機能とハイリスクの妊産婦等の医療機能などを統合し、産婦人科と小児科の枠を超えた高度医療を提供した。特に、合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、産褥異常、胎児異常等の患者の診療を行った。 ・当センターを受診されている妊婦だけではなく、緊急母体搬送で送られてくるハイリスク妊婦を 24 時間態勢で受け入れた。 ・胎児診療科の設置により、胎児異常の妊婦入院が増加した。また、全体の分娩数も増加した。 ○母体搬送の受入件数 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体搬送</td> <td>111 (9)</td> <td>86 (7)</td> <td>134 (7)</td> <td>108 (8)</td> </tr> <tr> <td>救急搬送</td> <td>23</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> ※ () はヘリコプター搬送 (内数) ○産科合併症 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早産</td> <td>82</td> <td>78</td> <td>114</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>HDP (妊娠高血圧症候群)</td> <td>43</td> <td>35</td> <td>23</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>常位胎盤・早期剥離</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>胎盤位置異常</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>28</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>羊水の異常</td> <td>6</td> <td>15</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	H27	H28	H29	H30	母体搬送	111 (9)	86 (7)	134 (7)	108 (8)	救急搬送	23	6	5	11	項目/年度	H27	H28	H29	H30	早産	82	78	114	119	HDP (妊娠高血圧症候群)	43	35	23	33	常位胎盤・早期剥離	10	12	11	8	胎盤位置異常	18	20	28	34	羊水の異常	6	15	7	6	IV		総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊婦に対する医療や高度な新生児医療の提供等、周産期医療の充実が評価できる。
項目/年度	H27	H28	H29	H30																																														
母体搬送	111 (9)	86 (7)	134 (7)	108 (8)																																														
救急搬送	23	6	5	11																																														
項目/年度	H27	H28	H29	H30																																														
早産	82	78	114	119																																														
HDP (妊娠高血圧症候群)	43	35	23	33																																														
常位胎盤・早期剥離	10	12	11	8																																														
胎盤位置異常	18	20	28	34																																														
羊水の異常	6	15	7	6																																														

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				自己 評価	論 点	検 証 (案)
		胎児異常	36	32	33	54		
		FGR (胎児発育不全)	10	5	32	18		
		○合併症妊娠 単位：件						
		項目／年度	H27	H28	H29	H30		
		婦人科系疾患	69	54	69	38		
		心・血管疾患	60	59	59	10		
		血液疾患	3	2	4	6		
		腎疾患	3	5	8	4		
		糖尿病・妊娠性糖尿病	26	21	23	40		
		甲状腺疾患	27	21	29	12		
		自己免疫・膠原病	2	3	3	3		
		呼吸器疾患	32	21	27	1		
		消化器疾患	5	6	6	8		
		精神・神経系	20	25	10	4		
		運動機能系	0	0	2	0		
		○ハイリスク妊婦・分娩等 (対象者) 単位：件						
		項目／年度	H27	H28	H29	H30		
		総合周産期加算	230	206	230	276		
		ハイリスク妊娠	25	46	48	100		
		ハイリスク分娩	18	18	21	33		
		救急加算	123	88	131	110		
		○保健指導実績 単位：件						
		項目／年度	H27	H28	H29	H30		
		保健指導	1,024	868	921	1,033		
		母乳相談	140	127	151	123		
		<p><新生児医療センターの運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月以降MRSA 保菌率が上昇した状況が続き、新たな対策を導入するとともに、院外出生児の入院を制限した。その結果、入院数は前年度より減少した。 ・超・極低出生体重児入院数は前年度とほぼ同数であった。 						

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																							
		<ul style="list-style-type: none"> ・新生児手術症例数も前年度とほぼ同数であった。 ・専用のドクターカー（すこやか号）により、医師同乗で未熟児をはじめとする新生児疾患患者の搬送を行った。 <p>○出生、母体搬送件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内出生</td> <td>136</td> <td>115</td> <td>181</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>院外出生</td> <td>63</td> <td>73</td> <td>98</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>母体搬送経由</td> <td>62</td> <td>48</td> <td>84</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>超低出生体重児</td> <td>27</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>極低出生体重児</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table> <p>○新生児手術状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児心臓外科</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>小児脳神経外科</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>小児外科</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科(気管切開)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	院内出生	136	115	181	178	院外出生	63	73	98	66	母体搬送経由	62	48	84	57	超低出生体重児	27	23	25	23	極低出生体重児	39	40	52	53	項目／年度	H27	H28	H29	H30	小児心臓外科	9	3	9	10	小児脳神経外科	7	5	4	4	小児外科	14	16	12	11	耳鼻科(気管切開)	0	1	1	2			
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																																								
院内出生	136	115	181	178																																																								
院外出生	63	73	98	66																																																								
母体搬送経由	62	48	84	57																																																								
超低出生体重児	27	23	25	23																																																								
極低出生体重児	39	40	52	53																																																								
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																																								
小児心臓外科	9	3	9	10																																																								
小児脳神経外科	7	5	4	4																																																								
小児外科	14	16	12	11																																																								
耳鼻科(気管切開)	0	1	1	2																																																								
07	<p>1 医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用</p> <p>医療総合情報システムに蓄積された各種医療データを分析し、医療情報として院内に提供する。 また、診療録の記載内容を監査することにより、院内の医療従事者の総合的なレベルアップを図り、医療の質の向上に寄与する。 診療情報の提供においては、ぎふ清流ネットを活用して、検査結果や放射線検査画像等を迅速に提供し、病診連携などの医療体制の充実を図る。</p>	<p>1 医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師が記載した電子カルテについて、記述内容等を診療情報管理委員会で監査し、そのレベル向上を図るとともに、医療画像の提供（7,793 件）やぎふ清流ネットの活用により、病診連携の実現に努めた。 ・診療情報として蓄積された DPC データについては、多職種で構成する分析チームにより、分析ソフトによる解析とコンサルタントを活用した 9 診療科の分析を実施した。さらに、分析チームによる活動範囲を広げることで、コンサルタントの関与を減らした。また、分析により指摘した事項について、半年後に定量的な評価を実施した。 <p>○分析報告会の実施状況とコンサルティング委託費用</p>	IV		電子カルテなどの情報を後利用して活かしている点は評価できる。																																																							

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 					自己 評価	論 点	検 証 (案)																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H 26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分析報告会数</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>定量評価</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>委託費用 (千円)</td> <td>10 ,5 85</td> <td>7,737</td> <td>7,230</td> <td>6,505</td> <td>3,003</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H 26	H27	H28	H29	H30	分析報告会数	3	9	9	8	9	定量評価	×	×	×	×	○	委託費用 (千円)	10 ,5 85	7,737	7,230	6,505	3,003										
項目	H 26	H27	H28	H29	H30																															
分析報告会数	3	9	9	8	9																															
定量評価	×	×	×	×	○																															
委託費用 (千円)	10 ,5 85	7,737	7,230	6,505	3,003																															
		※平成 27 年度より、院内の分析チームの活動開始																																		
08	<p>1 質の高い医療従事者の養成</p> <p>最先端の医療技術・知識の取得のため、各種学会や研修会、講習会等へ参加できるよう支援する。</p> <p>また、国内や海外での留学や他の先進病院へ医師を派遣することにより、長期研修できる体制を引き続き維持する。</p> <p>優秀な初期臨床研修医を確保するため、研修プログラムを充実させ、研修指導医の養成を図る。当センターの研修プログラムにマッチングした研修医に対しては、医師は勿論のこと、看護師、薬剤師、その他コメディカル、事務職員等、当センターのすべての職員が研修医の教育に関わり、チーム医療の一員としての優秀な医師の養成を支援する。</p> <p>2 専攻医に対する研修等</p> <p>新たに開始された専門医制度の下、7人の専攻医に対する研修を実施する。</p> <p>この専攻医に対しては、専門医取得に向けた当センター独自の研修プログラムにより、スムーズな専門医取得ができるように推進する。また、看護部、臨床検</p>	<p>1 質の高い医療従事者の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各診療科・部において医療従事者の養成を実施した。 <p>○平成 30 年度医師派遣状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>派 遣 先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科</td> <td>埼玉県立小児医療センター</td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>東京都立小児総合医療センター</td> </tr> <tr> <td>病理診断科</td> <td>愛知県がんセンター中央病院</td> </tr> </tbody> </table> <p>○初期臨床研修医数 (各年度末時点) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 後期研修医 (専攻医) に対する研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門医機構から基幹病院として認定された内科、小児科、整形外科において、その役割を果たした。 <p>○学会参加者数 (延べ人数) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>190</td> <td>74</td> <td>97</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	派 遣 先	小児科	埼玉県立小児医療センター	小児科	東京都立小児総合医療センター	病理診断科	愛知県がんセンター中央病院	項目/年度	H27	H28	H29	H30	医師	32	33	31	32	歯科医師	1	2	2	2	H27	H28	H29	H30	190	74	97	130	IV	<p>評価の検討</p> <p>IV→III</p> <p>専門医取得に向けて学会等への参加支援について、概ね年度計画どおり実施している。</p> <p>IVのまま</p> <p>専門医取得に向けて学会等への参加支援等に加え、その他の項目も継続的な取組ができており、項目全体で年度計画を上回っている。</p>	<p>「III」</p> <p>専門医取得に向けて学会等への参加支援を行っており、今後も支援の継続を期待する。</p>
診療科	派 遣 先																																			
小児科	埼玉県立小児医療センター																																			
小児科	東京都立小児総合医療センター																																			
病理診断科	愛知県がんセンター中央病院																																			
項目/年度	H27	H28	H29	H30																																
医師	32	33	31	32																																
歯科医師	1	2	2	2																																
H27	H28	H29	H30																																	
190	74	97	130																																	

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																			
	<p>査科、中央放射線部、薬剤部等病院内の各部署の協力を得て、研修プログラムの充実を図るとともに、チーム医療が円滑に行えるよう支援する。さらに、専門医取得に向けて各種学会、研究会等への参加について支援する。</p>	<p>○後期研修医及び専攻医数（各年度末時点） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>46</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	医師	31	31	46	46	歯科医師	0	0	0	0																							
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																				
医師	31	31	46	46																																				
歯科医師	0	0	0	0																																				
09	<p>1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の実習受入れ</p> <p>県内医療従事者の育成を図るため、医学生、看護学生、コメディカルを目指す学生の实習の受入れ体制を整備し、今後も積極的に実習を受け入れる。</p> <p>なお、薬学部学生については、薬学教育協議会による病院・薬局実務実習東海地区調整機構を通じて、当センターの定員である18人の実務実習の受入れを行う。</p>	<p>1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の实習受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内医療従事者の育成を図るため、医学生をはじめ看護学生、コメディカルを目指す学生の实習等の受入を行った。 <p>○医学生の実習等受入状況（実人数） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学生（実習）</td> <td>53</td> <td>42</td> <td>42</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>医学生（病院見学）</td> <td>83</td> <td>90</td> <td>100</td> <td>122</td> </tr> </tbody> </table> <p>○看護学生の実習受入状況（延べ人数） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学生</td> <td>9,475</td> <td>9,520</td> <td>8,676</td> <td>8,924</td> </tr> </tbody> </table> <p>○コメディカルの実習受入状況（実人数） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コメディカル</td> <td>74</td> <td>102</td> <td>101</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"></p>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	医学生（実習）	53	42	42	40	医学生（病院見学）	83	90	100	122	項目／年度	H27	H28	H29	H30	看護学生	9,475	9,520	8,676	8,924	項目／年度	H27	H28	H29	H30	コメディカル	74	102	101	94	III		医学生等の実習の受入増加を期待する。
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																				
医学生（実習）	53	42	42	40																																				
医学生（病院見学）	83	90	100	122																																				
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																				
看護学生	9,475	9,520	8,676	8,924																																				
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																				
コメディカル	74	102	101	94																																				

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				自己 評価	論 点	検 証 (案)
		○コメディカルの実習受入状況 (実人数) 単位：人						
		項目／年度	H27	H28	H29	H30		
		薬剤センター	18	18	18	15		
		リハビリ	25	26	22	15		
		中央放射線部	10	7	5	11		
		臨床工学部	7	3	3	4		
		栄養センター	8	11	8	6		
		臨床検査科	6	24	38	34		
		病理センター		13	7	9		
		合 計	74	102	101	94		

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																							
10 <input type="checkbox"/>	<p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <p>へき地医療拠点病院として、医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への人的支援を継続して実施する。</p>	<p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <p>・県立下呂温泉病院や高山赤十字病院等に対して、診療上の人的支援を行った。</p> <p>○他の医療機関への人的支援の状況 (延べ人数) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立下呂温泉病院 (後期研修医を含む)</td> <td>609</td> <td>623</td> <td>629</td> <td>437</td> </tr> <tr> <td>高山赤十字病院</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>378</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>揖斐厚生病院</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>下呂市立金山病院</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>藤橋国保診療所 ※</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>久々野診療所 ※</td> <td>9</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>郡上市民病院</td> <td>67</td> <td>71</td> <td>70</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>中濃厚生病院</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>久美愛厚生病院</td> <td>23</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>735</td> <td>720</td> <td>1,089</td> <td>529</td> </tr> </tbody> </table> <p>※岐阜県へき地医療支援機構依頼分</p>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	県立下呂温泉病院 (後期研修医を含む)	609	623	629	437	高山赤十字病院	12	12	378	26	揖斐厚生病院	1	1	—	5	下呂市立金山病院	12	12	12	12	藤橋国保診療所 ※	—	1	—	—	久々野診療所 ※	9	—	—	—	郡上市民病院	67	71	70	49	中濃厚生病院	2	—	—	—	久美愛厚生病院	23	—	—	—	合計	735	720	1,089	529	III		<p>県全体を代表する医療機関として、高山も含めた地域医療への支援を期待する。</p>
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																																								
県立下呂温泉病院 (後期研修医を含む)	609	623	629	437																																																								
高山赤十字病院	12	12	378	26																																																								
揖斐厚生病院	1	1	—	5																																																								
下呂市立金山病院	12	12	12	12																																																								
藤橋国保診療所 ※	—	1	—	—																																																								
久々野診療所 ※	9	—	—	—																																																								
郡上市民病院	67	71	70	49																																																								
中濃厚生病院	2	—	—	—																																																								
久美愛厚生病院	23	—	—	—																																																								
合計	735	720	1,089	529																																																								

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																								
15	2 診療情報のバックアップシステムの維持 大規模災害に備え、院内2か所の電算室において二重化している診療情報データや遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努める。	2 診療情報のバックアップシステムの維持 <ul style="list-style-type: none"> ・構築したバックアップシステムを適正に管理し、大規模災害時にも診療の継続が可能な環境を維持した。また、大規模災害のみならず、大規模システム障害にも備え、診療情報を蓄積したローカル SS-MIX ストレージ (オフライン PC) を各病棟、一般外来及び救急外来へ配備した。 	IV		大規模システム障害に備え、診療情報を蓄積したオフラインパソコンの病棟及び外来への配備など、体制を整備している点は評価できる。																								
18	1 レスパイトケアのための短期入所施設の整備、充実 医療型障害児入所施設内の3床 (空床利用) による短期入所を実施する。	1 レスパイトケアのための短期入所施設の整備・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年7月から定員2人 (空床利用型) で短期入所の受入れを開始していたが、利用者からの要望や利用率の高さを勘案し、平成29年11月に定員を2人から3人に増員した。県内の在宅で生活する重症心身障がい児・者81人と契約し、延べ897日のレスパイトケアを実施した。 <p>○短期入所施設の利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>2人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>契約者数</td> <td>76人</td> <td>80人</td> <td>81人</td> </tr> <tr> <td>利用延人員</td> <td>118人</td> <td>181人</td> <td>219人</td> </tr> <tr> <td>利用延日数</td> <td>420日</td> <td>712日</td> <td>897日</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>76.6%</td> <td>80.8%</td> <td>81.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※定員 H29. 11:2人 → 3人</p>	項目/年度	H28	H29	H30	定員	2人	3人	3人	契約者数	76人	80人	81人	利用延人員	118人	181人	219人	利用延日数	420日	712日	897日	利用率	76.6%	80.8%	81.9%	IV		レスパイトケアの充実性は評価できる。
項目/年度	H28	H29	H30																										
定員	2人	3人	3人																										
契約者数	76人	80人	81人																										
利用延人員	118人	181人	219人																										
利用延日数	420日	712日	897日																										
利用率	76.6%	80.8%	81.9%																										

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)															
22	<p>コンプライアンス (法令や倫理の遵守) の徹底</p> <p>医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程を遵守し、職員に対し定期的な意識啓発を実施する。</p> <p>監事監査、内部監査、監査法人監査等の実施により、チェック体制を確立し、コンプライアンスを確実なものとする。</p> <p>岐阜県情報公開条例に基づく公文書の公開及び岐阜県個人情報保護条例その他法人規程に基づくカルテ等医療情報の開示を着実にを行い、医療の透明性を確保するとともに、医療情報提供の環境を整備する。</p>	<p>コンプライアンス (法令や倫理の遵守) の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員に対して個人情報保護に関する研修を行った。 ・平成 30 年 10 月、全職員を対象にした個人情報保護に関する研修を実施し、79 人が参加した。 ・監事監査、内部監査及び監査法人監査の実施により、コンプライアンスを徹底した。 ・平成 29 年度に制定した内部統制の推進に関する基本方針をもとに、各種規程 (リスク管理、コンプライアンスの推進、内部通報、外部通報、反社会的勢力への対応等) を作成した。 ・患者や家族からの請求による個人情報の開示を適切に行った。 <p>○カルテ開示請求・開示件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>請求件数</td> <td>133</td> <td>172</td> <td>128</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>126</td> <td>166</td> <td>119</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	請求件数	133	172	128	149	開示件数	126	166	119	139	IV	<p>評価の検討</p> <p>IV→III</p> <p>新規採用職員を含め全職員を対象にした研修を実施するなど、概ね年度計画どおり実施している。</p> <p>IVのまま</p> <p>全職員を対象にした研修の実施に加え、基本方針に基づき、内部統制の推進に資する各種規程を策定するなど、項目全体で年度計画を上回っている。</p>	<p>「III」</p> <p>基本方針に基づき、内部統制の推進に資する各種規程を策定している。今後は全職員を対象とした研修の参加者を増やし、更にコンプライアンスの徹底を図ることを期待する。</p>
項目／年度	H27	H28	H29	H30																
請求件数	133	172	128	149																
開示件数	126	166	119	139																
24	<p>多様な契約手法の導入</p> <p>業務内容の集約化・簡素化・迅速化・費用削減等の提案を評価するプロポーザル方式による業者選定や複数年契約等多様な契約手法の導入を検討する。</p> <p>また、ベンチマーク分析や経費圧縮等に関するアドバイザーを活用することにより、効果のある契約方法の検討と経費の節減を図る。</p>	<p>多様な契約手法の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数年契約等を導入し、集約化・簡素化による経費の削減を図った。 ・複数メーカーの機種選定を勧め、ベンチマークを利用した交渉による医療機器の購入を行い、当初の予定金額より年間約 4,500 万円のコスト削減ができた。 ・診療材料について、ベンチマークを活用して新規採用品目の価格を抑えるとともに、既存使用品目も継続して価格交渉を行い、節減効果を維持した。 ・医薬品について、経費圧縮等に関するアドバイザーの活用により、継続的な価格交渉を行った。 ・庁舎管理部門において競争が不十分な可能性がある委託契約を洗い出し、対象の委託契約について入札方法の見直しを行った。また、必要に応じて複数年契約化の検討や過剰になっている保守契約の点検内容の見直しも併せて実施し、コスト削減を図った。 	IV		<p>多様な契約手法の導入など、独立行政法人化のメリットを活かした取組は評価できる。</p>															

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																															
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																																														
25	<p>1 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用 長期入院の患者数を常に把握しながら空床管理マニュアルを活用し、あわせて病診連携による退院調整を促進し、在院日数の短縮及び病床利用率の向上に努める。 また、医療機器については、開放型病床登録医師との病診連携を密にし、開放型病床を活用しながら、医療機器の稼働率の向上に努める。 CT、MRI及び上部消化管内視鏡検査については、検査のみの希望に対しても病診連携部を通じたFAX予約を可能としており、さらなる医療機器の効果的な活用に努める。</p>	<p>1 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な病床管理による病床利用率の向上に努めたほか入院診療単価の増額による収益確保に努めた。 ・地域の医療機関等との連携として、共同指導や病床・設備の開放を行い病診連携を推進した。 ・登録医からの FAX による MRI、CT、胃カメラ等の検査予約を実施した。 <p>○FAX による検査予約実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FAX 予約</td> <td>1,052</td> <td>816</td> <td>979</td> <td>924</td> </tr> </tbody> </table> <p>○収入関係数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">外 来</td> <td>患者数</td> <td>人</td> <td>340,070</td> <td>333,749</td> <td>336,658</td> <td>336,232</td> </tr> <tr> <td>平均患者数</td> <td>人/日</td> <td>1,399</td> <td>1,373</td> <td>1,380</td> <td>1,378</td> </tr> <tr> <td>診療額</td> <td>百万円</td> <td>5,449</td> <td>5,826</td> <td>5,818</td> <td>5,969</td> </tr> <tr> <td>診療単価</td> <td>円/日</td> <td>16,023</td> <td>17,458</td> <td>17,282</td> <td>17,752</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">入 院</td> <td>患者数</td> <td>人</td> <td>189,348</td> <td>189,660</td> <td>192,924</td> <td>191,035</td> </tr> <tr> <td>平均患者数</td> <td>人/日</td> <td>517</td> <td>520</td> <td>529</td> <td>523</td> </tr> <tr> <td>診療額</td> <td>百万円</td> <td>14,759</td> <td>14,802</td> <td>15,338</td> <td>16,053</td> </tr> <tr> <td>診療単価</td> <td>円/日</td> <td>77,948</td> <td>78,044</td> <td>79,501</td> <td>84,032</td> </tr> <tr> <td>在院日数</td> <td>日</td> <td>11.7</td> <td>11.9</td> <td>12.0</td> <td>11.4</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>%</td> <td>87.7</td> <td>87.0</td> <td>87.5</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率 分子：延べ入院患者数（＝当日末在院患者数＋退院患者数） 分母：運用病床数×日数</p>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	FAX 予約	1,052	816	979	924			H27	H28	H29	H30	外 来	患者数	人	340,070	333,749	336,658	336,232	平均患者数	人/日	1,399	1,373	1,380	1,378	診療額	百万円	5,449	5,826	5,818	5,969	診療単価	円/日	16,023	17,458	17,282	17,752	入 院	患者数	人	189,348	189,660	192,924	191,035	平均患者数	人/日	517	520	529	523	診療額	百万円	14,759	14,802	15,338	16,053	診療単価	円/日	77,948	78,044	79,501	84,032	在院日数	日	11.7	11.9	12.0	11.4	病床利用率	%	87.7	87.0	87.5	86.7	IV		入院診療単価の増加、病床利用率の維持は評価できる。
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																																																															
FAX 予約	1,052	816	979	924																																																																															
		H27	H28	H29	H30																																																																														
外 来	患者数	人	340,070	333,749	336,658	336,232																																																																													
	平均患者数	人/日	1,399	1,373	1,380	1,378																																																																													
	診療額	百万円	5,449	5,826	5,818	5,969																																																																													
	診療単価	円/日	16,023	17,458	17,282	17,752																																																																													
入 院	患者数	人	189,348	189,660	192,924	191,035																																																																													
	平均患者数	人/日	517	520	529	523																																																																													
	診療額	百万円	14,759	14,802	15,338	16,053																																																																													
	診療単価	円/日	77,948	78,044	79,501	84,032																																																																													
	在院日数	日	11.7	11.9	12.0	11.4																																																																													
	病床利用率	%	87.7	87.0	87.5	86.7																																																																													

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																				
27	<p>予算（人件費の見積含む。）、収支計画及び資金計画</p> <p>「平成28年度業務の実績に係る評価結果（平成29年9月岐阜県地方独立行政法人評価委員会）」において、年度計画を2年連続で下回った経常収支比率の改善に向けた努力を求められており、「2業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、経常収支比率100%以上、医業収支比率100%以上（重症心身障がい児施設を除く。）及び職員給与費対医業収益比率を50%以下（重症心身障がい児施設を除く。）とすることを旨とする。</p>	<p>予算（人件費の見積含む。）、収支計画及び資金計画</p> <p>中期計画上の取組を確実に実施することで、業務運営の改善及び効率化を進めた。その結果、経常収支比率 100.4%、医業収支比率 104.4%、職員給与費対医業収益比率 48.1%と年度計画の目標を達成した。</p> <p>○経常収支比率・医業収支比率・職員給与費対医業収益比率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>99.6</td> <td>98.8</td> <td>100.1</td> <td>100.4</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 ※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>104.6</td> <td>104.4</td> </tr> <tr> <td>職員給与費対医業収益比率（人件費比率）※</td> <td>48.4</td> <td>48.9</td> <td>48.0</td> <td>48.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※重症心身障がい児施設を除く</p>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	経常収支比率	99.6	98.8	100.1	100.4	医業収支比率 ※	—	—	104.6	104.4	職員給与費対医業収益比率（人件費比率）※	48.4	48.9	48.0	48.1	IV		<p>医業収支比率で104.4%を維持しており、評価できる。また、人件費比率が50%以下であることも評価できる。</p>
項目／年度	H27	H28	H29	H30																					
経常収支比率	99.6	98.8	100.1	100.4																					
医業収支比率 ※	—	—	104.6	104.4																					
職員給与費対医業収益比率（人件費比率）※	48.4	48.9	48.0	48.1																					
28	<p>1 職員の就労環境の整備</p> <p>職員の精神的な悩みなどに対して窓口を設置し、専門家による定期的な相談体制を充実するとともに、ハラスメント防止に向けた職員への周知活動など院内相談窓口の機能を強化する。</p> <p>また、24時間体制で警備員を配置し、併せて「院内暴力対応マニュアル」を周知することで、院内暴力に対する取組を強化する。</p> <p>さらに、職員の専門的能力が十分に活用される効果的な病院運営のため、医師事務作業補助職員や看護事務補助職員をはじめとする専門職の雇用を拡充し、病院職員の最適な勤務環境の改善に努める。医師住宅、看護師寮などの福利厚生施設の整備について検討し、ゆとりある職場環境を創造し、職員が安全かつ安心して勤務できる勤務環境づくりに取り組む。</p> <p>また、「女性職員が継続して働ける病院づくり委員会」が行った働きやすい職場環境づくりアンケート調査結果の意見を踏まえ、女性職員が働きやすい勤務環境の改善について検討する。</p> <p>さらに、仕事と生活をともに充実したものとするため、1箇月単位の変形労働時間制の利点を活かし、</p>	<p>1 職員の就労環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント防止に向けて、院内相談窓口を2つから3つに増やすとともに、専用アドレスの運用を開始した。 ・所属ごとに勤務環境改善の取組み結果を集約し、参考例として全所属に周知した。 ・24時間体制で警備員を配置し、併せて「院内暴力対応マニュアル」を周知することで、院内暴力に対する取組を強化した。 ・専門職の雇用を拡充し、病院職員の最適な勤務環境の改善に努めた。 ・医師住宅の浄化槽保守点検、清掃等適切な管理に努めた。 ・職員食堂の満足度及び利用者の増を目的に、運営事業者の再選定を実施した。併せて職員食堂内の内装のリニューアル等を行った。 ・平成28年4月から開所した病児・病後児保育施設の運用について、「女性職員が継続して働ける病院づくり委員会」で検討を行い、保育所運営を行う保育所運営協議会に対して運用の見直しと改善についての提言を行った。保育所運営協議会で病児・病後児保育施設の利用資格の拡大の検討・試行等を行い、利便性向上を図った。 ・衛生・労働安全委員会で、長時間残業職員数を報告し、縮減するよう啓発に努めた。 ・看護師のみならず医師やコメディカルについても、変形労働 	IV		<p>病児・病後児保育を含めた院内保育所の充実には評価できる。</p> <p>院内暴力対策の取組の効果について、データ化を期待したい。</p>																				

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																											
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																										
	<p>時間外勤務時間の縮減、年次有給休暇の取得促進、代休の取得や週休日の振替の徹底等、適切な労働時間の管理の下、職員の家庭環境に配慮する。</p> <p>3 病児・病後児保育を含めた院内保育施設の充実 院内保育所の在り方について職員との意見交流を図り、保育の質の向上や運営体制の充実を行うなど、環境整備に取り組む。 また、24時間保育を継続的に実施する。</p>	<p>時間制による勤務を採用することにより、時間外勤務時間の縮減に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医局会や看護師長会を通じ、代休の取得や週休日の振替の徹底を図った。 <p>○代休等取得状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代休取得</td> <td>37</td> <td>53</td> <td>33</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>週休日振替</td> <td>1,445</td> <td>1,142</td> <td>850</td> <td>756</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 病児・病後児保育を含めた院内保育施設の整備及び充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年2月から24時間保育を実施している。 ・病児・病後児保育の定員について、平成29年4月から3人から6人へと変更した。この結果、多くの職員が利用することができた。 ・平成30年3月からネット予約システムを導入し、利便性の向上を図った。 ・病児・病後児保育施設の利用資格の拡大について検討を行い、平成31年1月から利用資格の一部拡大について試行した。また、更なる利用資格の拡大について平成31年度中に実施する計画を立てた。 <p>○院内保育所の運営状況 (年度末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所施設 (こばと) 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入所者数</td> <td>47</td> <td>47</td> <td>54</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>保育士数</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育施設 (バンビ) 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>94</td> <td>283</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>保育士・看護師数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H28.4 運営開始、定員 H28:3人 → H29:6人</p>	項目／年度	H27	H28	H29	H30	代休取得	37	53	33	37	週休日振替	1,445	1,142	850	756	項目／年度	H27	H28	H29	H30	入所者数	47	47	54	55	保育士数	10	18	22	21	項目／年度	H28	H29	H30	延べ利用者数	94	283	206	保育士・看護師数	3	3	3			
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																											
代休取得	37	53	33	37																																											
週休日振替	1,445	1,142	850	756																																											
項目／年度	H27	H28	H29	H30																																											
入所者数	47	47	54	55																																											
保育士数	10	18	22	21																																											
項目／年度	H28	H29	H30																																												
延べ利用者数	94	283	206																																												
保育士・看護師数	3	3	3																																												

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)
30	<p>2 診療施設等の計画的な整備 放射線治療装置（リニアック）の更新に伴う南棟（仮称）の整備を推進するとともに、既存施設の改修を計画的に進める。 なお、これらの整備に当たっては、総合医療センターとして担うべき機能の強化が図られるよう、医療需要や費用対効果等を総合的に勘案するものとする。</p>	<p>2 診療施設等の計画的な整備 ・放射線治療装置（リニアック）の更新に伴う南棟の整備について、その基本・実施設計を行った。 ・感染症対策強化のため、9階西に陰圧・陽圧切替システムを具備した感染症対策室を整備した。 ・患者サービス向上のため、総合サポートセンターの新設を決定し、その整備を進めた。</p>	IV	<p>評価の検討 IV→III 総合サポートセンターの設計検討や南棟整備に係る基本計画の策定など、概ね年度計画どおり実施している。 IVのまま 総合サポートセンターの設計検討や南棟整備に係る基本計画の策定など、計画的な整備ができており、項目全体で年度計画を上回っている。</p>	<p>「III」 総合サポートセンターの新設や南棟の整備について、医療需要や費用対効果等を総合的に勘案しながら、引き続き計画的に進めることを期待する。</p>